

NEWS LETTER

発行：水資源・環境学会

NEWS LETTER No.49

2009年1月9日

2008年度 冬季研究会

水道の水源と経営問題

水道は国民生活に直結し、その健康を守るために欠くことのできないものである。水道法は第1条の目的で、清浄にして豊富低廉な水の供給を図り、もって公衆衛生の向上と生活環境の改善とに寄与することと定めている。水道は社会的に不可欠な事業であることは認識されているが、多くの問題を抱えているのも事実である。水質問題の多様化・複雑化、節水意識の浸透と水需要の減少、老朽化した水道施設の取替えや赤字の経営問題、安定した水資源確保の困難化、などなどがある。

「21世紀における水道及び水道行政のあり方」では、需要者の視点、自己責任原則、健全な水循環の基本的原則を提示している。水道の水源をめぐっては、地下水、表流水、ダムなど多様にある。また、地理的にはローカルな水源と広域的な水源ともに分けることができる。さらにはその水量、水質にも違いもあり、水道料金の地域格差は10倍にもなっている。

今回の研究大会では、受水量削減問題で訴訟の当事者でもある大山崎町長と安全な水の安定供給のため、水源の再整備事業や老朽施設の整備など自治体の現場が抱える問題などを舞鶴市水道局の方から提起していただき、多様な水源をめぐっての水の安全性、水道施設の整備、水道料金の格差などの問題点を皆さんと一緒に探っていきたいと思います。

目次：

2008年度 冬季研究会 ご案内	1
2009年度 研究大会 ご案内	2
2009年度 夏季研究会 第一報	3
2008年度 夏季研究会 報告	3
水資源・環境研究」全巻全 号電子アーカイブ化に伴う著 作権委譲に関する告知	6
事務局からのお知らせ	6

【日時】2009年3月7日(土)13:00~17:00

【場所】立命館朱雀キャンパス多目的ホール

JR 地下鉄東西線二条駅、下車すぐ
京都市バス 千本三条・朱雀立命館前「下車
JRバス 千本三条・朱雀立命館前」下車
阪急電車大宮駅、徒歩約10分



・研究発表

- 1.長谷博司(舞鶴市水道部)
13:05~13:45
- 2.真鍋宗平(大山崎町長)
13:45~14:25
- 3.仲上健一(立命館大学政策科学部)
14:25~15:05

・総合討論・パネルディスカッション

15:15~16:40

・終わりに

16:40~16:45

【全体司会】西田一雄(株)地域環境システム研究所)

【討論司会】伊藤達也(法政大学文学部)

研究大会終了後、懇親会を予定しております。

2009年度 水資源 環境学会
研究大会のご案内

研究大会テーマ：「これからの農業水利を考える」

研究大会開催日： 2009年6月13日 (土)

農業水利問題研究会が、日本の農業水利に関する総合的な研究を進め(1956年度～1959年度までの4年間)、その成果を公刊(農業水利問題研究会編『農業水利秩序の研究』御茶の水書房、1961年)してから、ほぼ半世紀が過ぎようとしています。この間、日本の経済や社会が大きく変化したのと併行して、日本の農業や農業水利もまた大きく変化してきました。日本農業が産業構造のなかで占めるウエイトは、この半世紀の間に大きく低下しましたが、農業水利の変化については一般にあまり知られていません。

水利問題に高い関心が寄せられている時には農業用水の灌漑機能に焦点が当たっていましたが、農業のウエイトが低下するに伴い、農業用水は灌漑機能のみならず生活環境や自然環境を維持する多面的な機能を持っているという側面にも関心が向けられるようになりました。

水に関する研究が、生産資源としての水だけでなく、環境資源としての水についても考察の対象に入れようとしているなかで、2009年度大会ではこれまで日本の水利用の重要な部門であった農業水利をとりあげ、多角的な検討を試みることとなりました。

-
- 【大会会場】 法政大学市ヶ谷学舎
〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1
- 【発表応募締切】 2009年3月31日(火)必着
(電子メールで「タイトル、報告者名及び400字程度の要旨」をお知らせください)
(自由論題も受け付けています)
- 【発表原稿締切?】 2009年5月15日(金)必着
- 【応募問合せ先】 秋山 道雄(滋賀県立大学 環境科学部)
電話 :0749-28-8274 FAX :0749-28-8344
E-mail: akiyama@ses.usp.ac.jp
-



2009年度夏季現地研究会第一報

「韓国・ソウルに行く - 清溪川と韓国版ニューディール政策」

2009年夏の現地研究会は上記の題目で実施します。概要は以下の通りです。詳細については改めて次のニューズレターに掲載しますが、皆様、是非、夏の予定にお入れいただき、大勢の方が参加されることを期待しています。質問等がありましたら、担当の伊藤までご連絡ください。

テーマ：清溪川と韓国版ニューディール政策

日 程：2009年8月30日（日）～9月1日（火）

概要： いみよんぼく 韓国の李明 博大統領はソウル市長時代、下水路化していたソウル中心を流れる清溪川を復活させ、ソウルの街を一躍環境先進都市に押し上げました。その勢いで2007年の大統領選に出馬、見事当選し、現在、世界的な不況の中、韓国の舵を必死になって握っています。その中で李大統領の中心政策は土木事業です。大統領選時にはソウルから釜山を運河でつなく「大運河構想」を掲げ、大運河構想が萎むと今度は「韓国版ニューディール構想」を掲げ、再び大規模公共事業で韓国経済の活性化を目指します。果たしてその策は是か非か。

水資源・環境学会としてこうした韓国の開発・環境分野の最新状況を視察する予定です。環境と開発の対立を韓国はどのような手段で解消しようとしているのか。みなさんで考えてみませんか。

担当：伊藤達也（法政大学）
tito@hosei.ac.jp

2008年度 夏季研究会

世界遺産知床の今を考える」報告（2008年8月25日～27日）

伊藤達也（法政大学）

水資源・環境学会の2008年度夏季現地研究会は8月25日から27日にかけての知床ツアーでした。幸いにも天候に恵まれ、夏の知床を満喫すると共に、世界自然遺産である知床の海と森について深く考えることのできるイベントになったと思います。以下で簡単に内容の報告をさせていただきます。

8/25（月）

女満別空港は網走湖の南に広がる台地の上にあります。飛行機が空港に降りるラインにサロマ湖、網走湖が広がり、湖の周りは畑、牧草地が広がっています。飛行機の中からすでに夏の北海道は始まっています。関西空港からやってくる主力組を待ちつつ、早速、お昼ご飯から北海道の幸を満喫しました。

今回の現地研究会の参加者は総勢14名。毎年、夏の研究会の参加者は10名前後ですので、普段よりも

少し参加者は多かったと言えます。女満別空港で参加者全員が無事集合し（フェリーに自家用車を積み込んで北海道上陸を企んだ学会事務局グループは夕方ホテル集合でした）、車2台に分乗して研究会のスタートです。

女満別空港から最初に向かったのは能取岬です。車は網走湖を横目に眺め、能取湖の湖岸を気持ちよく走り、オホーツク海にちょっと突き出た能取岬は白と黒のまだら模様のかわいい灯台（写真1）と、ふりむけば牧場？牛や馬の群れが迎えてくれます（写真2）。家族連れを中心にちょっとした賑わいのある観光地になっていました。

北海道に行くといつも間違えるのが「距離感」です。必ず実距離よりも短めに計算してしまいます。その結果、「地図で見ればすぐじゃない」と誰もが思ってしまうところが、実は120kmくらいの距離にあり、ひたすら車で走り続けると予定時間に遅



写真1 能取灯台と学会員の秋山さん



写真2 能取岬と牛・馬

れてしまうことになります(図1)。今回の研究会も初日からこのような経験をするようになりました。運転していただいた方々、本当に感謝しています。能取岬から知床半島ウトロ(ホテル所在地)まで2時間強、ひたすら走り続けることとなりました。たどり着いたホテルではゆっくりと食事、ゆったりと温泉、そして夜更けまでカラオケに興じた方々、十分楽しめたかと思えます。

8/26(火)

2日目は知床クルージングです。今回の現地研究の目玉と言ってもよいでしょう。知床の夏は短く、しかも知床半島の先端の知床岬まで行くためには船に乗らなければなりません。朝9時30分、予約していたホワイトリリー旭川観光船事業部ドルフィンに向かい、10時乗船、約3時間に及ぶ船旅を楽しみました(写真3、4)。知床半島の海岸は複雑です。船に揺られている間、次々と現れる海岸線の多様さに参

加者一同、結構はしゃいでいたのですが、さすがに知床岬からの帰りの船はみなさんかなり飽きてきた、疲れてきたようでした。お疲れ様でした。

下船した後はゆっくりと昼食を楽しみ、午後の行先である知床自然センターに立ち寄り、フレベの滝までの散策の時間となりました。途中、エゾシカとたわむれ、「さあ、これから網走へ行くぞ」と車を出発させようとした時、「知床五湖に行きたい」と強い要望が出され、時間がないのでカットしようとしていたコーディネーターの願いは見事に碎かれ、足早に知床五湖の一湖に立ち寄ることになりました。さらに網走に行く途中だからということで、オシンコシンの滝にも急ぎょ立ち寄り、やはり本学会は水から離れることはできない、カットしようとした私が間違っていたと思った次第です。ちなみにオシンコシンの滝は日本の滝100選にも選ばれている名瀑であり、なかなかよかったです。「ちょっとだけ行こうよ」と強く勧めていただいたNさん、改め

図1
現地研究会の場所
(女満別・網走・ウトロ)





写真3 知床半島の山々



写真4 知床岬遠望

て感謝です。

さて、オシンコシンの滝見学を無事終え、網走に向かって走り出すと間もなく名古屋水道労組幹部K氏の御子息から携帯に電話があり、「さてさて何のことだろ」と思いながら話すと、「網走の夕食を案内したい」という、何ともありがたい話。そう言えば、だいぶ前にK氏から御子息が北海道新聞網走支局に転勤されたことを聞き、「よければ電話して」と言ったことを、電話をもらって思い出す始末でした。網走で知らない人はいない(ホテルのフロントで聞いたらそう言ってました)お寿司屋さんを紹介してもらい、感謝感謝です。

8/27(水)

今回の研究会もあっという間に時間が過ぎ、最終日となってしまいました。午後には参加者の皆さんそれぞれ帰途につかねばならないことから、無理はできず、網走市内の観光に徹しました。まず最初に網走刑務所に行き、なぜか記念写真を撮りまくり、次に向かったのが昔の網走監獄の建物を移転して公開している博物館・網走監獄です。これがなかなかスマッシュヒットで、約1時間の案内をしてもらい、網走監獄の凄みを十分堪能しました。なかなかお勧めです。

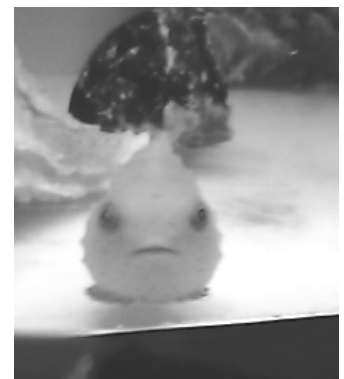
そして昼食を兼ねて立ち寄ったのがオホーツク流氷館です。確か小雨が降っていました。網走の市街地を見下ろす天都山山頂にある流氷をテーマにした科学館で、メインは本物の流氷を展示するマイナス18度の流氷体験室です。みなさん、濡れたタオルを渡され、体験室の中でグルグルタオルを回しながら、それが凍っていくのを体験した次第です。私はかなり前からお会いしたかったクリオネと無事対面を果たし、また、とってもかわいいフウセンウオに魅入ってしまいました。フウセンウオにはちょっとはまってしまい、今、私の携帯の待ち受け画面です(写真5)。

オホーツク流氷館でゆっくりとした昼食をいただき、充実したお土産やさんを満喫したところで、持ち時間がなくなりました。時間に遅れることなく、参加者の皆さんが無事に帰路につけるよう、女満別空港へ向かい、それぞれの飛行機に乗り込んだ次第です。

全日程が無事終了し、しかも、2日目の知床クルージングは天候にも恵まれ、なによりでした。実は今一番記憶に残っているのは知床の海ではなく、2日目、ひたすら夕闇の中を網走に向かって走っているときに車窓に広がっていた北海道の空です。とにかく広い。そして雲の動き、夕暮れの薄明りが何とも言えず素晴らしい。一年の最もいい季節に1日や2日来ただけで「ここはいいところだ」と言うつもりはありません。でも、ここにも多くの人が住んでおり、こんな大きな空の下で暮らしている。経済状況からすれば決して良好とは言えない道東にこれからも人が住み続けられるような社会システム、経済システムってないだろうか。ずっとそのことを考えていました。

以上、2008年夏季現地研究会の報告でした。2009年の夏は韓国に行きます。学会としては10年ぶりの韓国です。皆さん、ご期待ください。

写真5 フウセンウオ



水資源 環境研究」全巻全号電子アーカイブ化に伴う著作権委譲に関する告知 (お願い)

2008年12月24日

会員ならびに著者各位

水資源 環境学会 (以下 本会」という)は、1987年の創刊以来、学会誌「水資源 環境研究」(以下 本誌」という)を刊行して参りました。20年以上の長きに渡り本誌を刊行できましたことは、ひとえに会員各位のご支援、ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

此の度、科学技術振興機構の電子アーカイブ対象選定委員会によって、本会の本誌が創刊号以降の全巻全号を電子化してアーカイブされる対象誌として選定されました。

この電子アーカイブとは、誌面を電子データ化し、同機構インターネットウェブサイト上で公開することをいいます。

これにあたっては、電子化された論文などの記事等 (以降、記事」と呼ぶ)はすべてが同機構のサーバに保存されるため、著作権が本会に帰属していることが条件となります。

本誌の電子アーカイブ化にあたっては、著作権法により、掲載された記事の著者からその著作権 (複製権、公衆送信権を含む)の許諾又は譲渡を必要とします。

これまで学会誌に掲載される記事の著作権につきましては、慣行として著者から著作権を委譲いただいたものとして取り扱っておりましたが、それについては明文化されていませんでした。

これらの事情から本電子アーカイブ化を進めるにあたり、創刊号以来の著作について著作権は本会に帰属するものいたしますので、会員ならびに著者の皆様にご了承をお願いいたします。

なお、今後の著作権の取り扱いについては、投稿規程に著作権規定を定めて明確にしていく予定です。

万一、この件に関しましてご了承いただけない場合、あるいはご不審の点がある場合は、**2009年2月28日まで**に本会事務局に文書でお申し出下さい。本会は、このお知らせが著者のみなさまの目に触れることを前提としておりますが、何らかの事情でこの件をお知りになる機会がなかった場合には、期限を過ぎましても、あらためて個別にご相談させていただき所存です。なお、お申し出のない場合には、ご了承いただいたものとし、電子アーカイブとして公開する時期がまいりました段階で、記事を掲載させていただきたいと存じます。

学会事務局からの案内と連絡

原稿募集!

学会誌「水資源・環境研究」への投稿を募っております。次号の締め切りは、**8月31日**です。投稿規程や執筆要領は学会誌の巻末にあります。投稿希望の方は、学会誌巻末の原稿送付票を添えて下記担当理事まで原稿をご送付下さい。次号の内容をさらに充実させるべく、皆さまのご投稿をお待ちしております。お問い合わせなども下記までご遠慮なく!

学会誌編集担当・事務局 野村 克巳

連絡先 (自宅) 〒659-0012 芦屋市朝日ヶ丘町8-7-610

電話 & F A X : 0797-34-4785 E-MAIL : k-nomzo@hi-ho.ne.jp

2008年度会員名簿を発行しました。連絡先などに変更はございませんか?

所属先、連絡先等、変更がございましたら学会事務局までご連絡下さい。

発行 : 水資源 環境学会

〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500 滋賀県立大学環境科学部内

電話 0749-28-8278 Fax 0749-28-8348 <http://www.soc.nii.ac.jp/jawre>